

随 想

こりとこだわり

広南病院

藤原 悟

Satoru FUJIWARA

導入

藤の花の咲く頃、それは一番釣れる。ここ宮城県仙台近港の漁師は言う。仙台湾を中心とした宮城県沿岸の湾は特徴的に、水深40m位の遠浅が沖合いまで続く。海底は岩場も混じるが、おおむね泥砂が多く、鰈（カレイ）の格好の住みか、繁殖場所となる。カレイはヒレで泥砂をほこりのように舞上げて、魚体に搔け、目だけ出して泥砂に隠れ、敵から身を守ると同時に、あたかも潜望鏡のように目をきょろきょろさせエサを探す。その様はまことに愛嬌がある。その泥砂の中にカレイの好む虫も多い。つまり当地はさほどにカレイの魚影が濃いのである。

だから、仙台の海釣り、とくに船釣りの対象魚のほとんどはカレイとなり、自称カレイ釣りキチも多くいて、各地区あるいは釣具屋単位でカレイ釣りクラブを結成し、ユニホームまで仕立てる入れ込み様である。

趣味について

人間の人生への価値観は、全く人それぞれである。それが最も象徴的に言われるのは、自分が今死なんとしているとき、自分のそれまでの人生は自分にとって満足すべきものであったかどうか問う場面であろう。あるひとは、山のように積み上げた自分の著になる論文のかずかずを見て、満足な死を迎える。あるひとは、世の中のありとあらゆる快楽を享受して、自分の人生は有意義だったと考える。

私は欲張りでどちらも経験したい人間だが、それでも若い頃は前者が主であったと言え、50歳を迎えた今はどちらかということ、というよりも迷わず後者に近い。とはいっても私は人生の悦楽の全てを享受などと、とてもとても言えない人生のまだまだの小僧である。

もっとも、若い脳神経外科医は、いろんな症例を経験し、手術をこなし、研究もして、論文をたくさん書くことに価値観をもってもらいたい。

私は若い頃から、自分の時間に余裕のあるときはぼんやりして過ごしたくない、じっとしてられない性分だった。ぼんやり過ごすことが趣味というひともいるが、私は体を動かしたい、ために戸外に出かけるいろいろなレジャーに精をだすことになる。山での溪流釣り、山菜採り、きのこ狩り、スキー、平野での川、湖沼つり、ゴルフ、海での海水浴、潮干狩り、船釣りときりが無い。

妻は「多趣味は無趣味と同じじゃないの」と揶揄するが、確かに趣味とはひとにより捉え方が違う。一般に浅く経験するのは”楽しむ”であって、趣味とはもっと掘り下げるものという考えのひとが多い。しかし浅いのも趣味とするひとからみれば、彼等はまるで病気のようなだといわれるくらいのめり込むことになる。いずれにしても趣味というのは、(初心者は別として) お膳立てしてもらって楽しむのではなく、自分で準備し、自分で出かけ、自分でするものということはいえよう。私も、上記のすべてに病気となったわけではなく、経験してみることにどん欲なだけで浅く楽しむものも多く、その意味では若い頃の沼でのへらブナ釣りと現在の海での船釣りが最近で言う”はまった”ものだろうか。

そろそろすこし教訓めいた話をしよう

釣りに初心者も連れていく。道具はすべて貸す。いちから教える。1回でもうたくさんという人と、初回釣れなくても釣りの虜になるひとがいる。そして、そういうひとは大抵は自分の道具を持ちたがる。さらに自分でしかけ(釣り針とそれにつながるハリスなどの一式をいう)などを手作りで楽しみ始める。いわゆる「こり」である。そして、自分の作ったものにとことん固執する。いわゆる「こだわり」である。自分作のものが最高と思いつまむ(または勘違いする)。つまり我流に陥る。この頃からである。初心者の頃はあんなに釣れたのに、と悩み始めるのは。友人の例で、始めたころはひとに嫌われるくらい釣れたのに、最近ではいくたびに「ボウズ」(1匹もあがらないこと)のひとがいる。もちろん同乗した我々他のものは釣れている。その海が自分に合わないという。宮城県の釣りのメッカ、「歌津(うたつ)」というところである。「歌津では、うだつがあがらん」などとしゃれて嘆いている。

先頃の釣行で、彼のさおがピクリともしないという状況になったので、私は手を止めて彼のやることをじっと観察していた。もちろん、エサの付け方から魚の上げ方まで彼に教えたのは私で、その頃は筋がいいと誉めるくらい釣れていたし、私から習った通りに従順に釣っていたのだ。それをそのまま継続すればいいものを、ああすればもっと釣れるに違いない、こうすれば魚が寄って来るだろうと勝手にmodifyしてしまうのだ。竿をはじめとする道具も私が勧めたもので、最初から使っているものに間違いない。

見ていると、釣り針へのエサの付け方がまったくくなっていない。エサの虫の自然な動きが損なわれ、魚の食欲をそそらなくなるような付け方なのである。それを指摘されてもどこが悪いんだという怪訝な顔をしている。この付け方のほうが魚が食べやすい形だと自分で工夫したと言う。そんなことを言っても結果(ボウズ)が証明しているではないか。何回釣行してもそれも分からないくらい我流に固執している。そこで、私がエサをつけ直して海底に降ろさせた。とたんに魚信(あたり)があり、いわゆる入れ食いである。それからの合わせ、取り込みには問題がなかった。つまり、こりが高じてこだわりとなりついには間違った自己流に固執した典型例である。

私も時々我流に陥らぬよう、「達人の釣り」というビデオを観る。ただし、決して鵜呑みにはしない。達人の技でさえも、ときには批判的に、私ならこういう場合はこうはしないという見方もする。若い脳神経外科医の皆さんも達人の手術のビデオを参考にされると

思うが、まねすべきはどんどん取り入れ、しかし批判力ももって観なくてはいけないと思う。

こりところだわりこそ趣味を深める神髄だろう。手術もにもこりは必要、ときにはこだわりも大事である。しかしどんな例にも同じアプローチというわけにはいかないだろう。そして結果を反省し、やり方を改めることもまた大切で、初心に、基本に帰ることも忘れてはならない。この友人の釣りのエピソードは、その辺の事情を雄弁に物語っている。

釣りのときは、船頭と仲良しになり現地の情報を集め、新鮮なエサを求め、ひとより釣れるであろう”しかけ”を作り、海底でのしかけのアクションを想像し、実際に水を張った風呂で試してみる。前日の夜は天気予報を確かめ、波の高さやうねりでしかけの長さや釣り方の計画を立て、翌朝への期待で胸を躍らせる。自分の用意や釣り方が、的中した場合は心の中で密かに喜ぶが、決して慢心、満足せず、それよりも外れた場合が大切で、どこが悪かったのか、何が問題か十分に反芻し、確実に次回につなげるようにする。

手術も術前の準備や手術の進め方を計画するのはもちろん誰でもするし、大切なことであるが、うまくいった症例より、そうでなかった例の原因を分析、反省することが上達につながる。うまくいったのは、自分がうまいからと思わずに（誰がやっても）当たり前で、うまくいかなかったのは自分に原因があると考えるべきである。

船釣りのはなしをしよう

私の釣り仲間はいろんな職業のひと、男女がいる。我々医師はともすれば医療関係者のみの、ひとによっては医師同士のつき合いしかないという、狭い世界となりやすい職業である。私は経済学部も出ているので、大学の同窓会は2つに入会しており、医療関係以外のつき合いも広いほうであろう。それでもたまに会うと異なるお互いの仕事の話が中心となり、心を許すというか心休まる感じはしない。

船釣りは文字どおり、呉越同舟、いろんなメーカー、上司などとも乗船するが、そこには仕事の関係、話題はない。あるのは、釣りという共通語を介したコミュニケーションのみだ。一度たりとも仕事の話はしたことがない。だから競合メーカー同士も乗船することがある。費用はきっちり割り勘だ。ひとの釣った魚を誉め、羨み、小物はみんなで笑う。いろんな自慢話しをする。本当に心が和むひとときである。仕事の話はしないが、つき合いが広がる。結果として普段の仕事に好影響をもたらすことがある。

たまにレジャーを楽しむかたに

いつもみんなに言うことだが、スキーや釣りに行ったら「スキーをするな」、「釣りをするな」、酒でも飲んでのんびりしろ。なぜか。ごくたまに行くスキー、釣りである。たまにであるからこそみんな夢中になる。だから骨折する。1シーズンに1~2回しか行けないから無理をする。スキーどころでなくなる。魚を釣りたくて釣りたくて、魚の顔を見たくて、自分の顔が水面にくっついて、水面に潜るくらい水面を見つめ続けて船酔いをする。もはや釣りどころでない、身の置き所のない苦しみである。

私は、雪景色をながめ、青空と雪山のコントラストに感激し、スキーに来れたことに感謝し、滑りを楽しむ。潮風を胸いっぱい吸い込み、周りの島々を眺め、冷たいビールを味わい、仲間の釣り姿を観察し、そして手→竿先だけは、海底からの反応に鋭敏に研ぎ澄まし、魚との対話を満喫する。

若い人に

年寄りの小言と思ってください。三つ言いたい。

1) 協調性なし。みんなと行動するよりはひとりが良いと考える。マージャンもしない。ルールを知らないわけではない。一人コンピューターゲームに向かう。いまさら現代はチーム医療の時代だなどとはいわないけれど。もっとみんなの中に入って欲しい。

2) 息抜きをしなさい。決して仕事の手抜きではない。仕事を早く憶えれば、手抜きしてよいところがわかり、結果息抜きできる。するとすぐに切れない。長続きする。

3) 根気がない、堪え性なし。脳神経外科医になろうとするひとは、医師の中でも根性のあるひとが多いが、それでも嫌なことがあるとすぐ辞めてしまう。どこへ行っても人間関係はむずかしく、何をやっても辛いこともあるというのに。

最後に

中国の古諺（出典不明）を上げ、釣りへのいざないとします。

- 1 時間、幸せになりたかったら酒を飲みなさい。
- 3 日間、幸せになりたかったら結婚しなさい。
- 8 日間、幸せになりたかったら豚を殺して食べなさい。
- 永遠に、幸せになりたかったら釣りを覚えなさい。